

治験センター NEWS

第45号 2021年7月 発行

内分泌代謝科・糖尿病では、現在2つの治験、一つはミトコンドリア糖尿病への医師主導の治験、もう一つは週1回注射のインスリンの企業主導治験に参加しています。

今回、内分泌代謝科・糖尿病部長の森 保道先生に伺いました。

【ミトコンドリア糖尿病を治療するための取り組み】

・ミトコンドリア糖尿病とは

体のあらゆる細胞がエネルギーとしてATP（アデノシン3リン酸）を使います。ATPは細胞のなかのミトコンドリアで作られるため、ミトコンドリアは細胞内の発電所のような役割を担っています。ミトコンドリアの働きが遺伝子の違いにより生まれつき不十分な方が、糖尿病と難聴の症状をきたすことがあり、ミトコンドリア糖尿病と呼ばれます。糖尿病患者さんの0.5~1%ほどにミトコンドリア糖尿病の兆候がみられます。

・タウリンを補充する治療の試み（医師主導治験）

ミトコンドリア糖尿病の方が、タウリンという栄養素を服用するとミトコンドリアの働きが部分的に回復することが期待されています。このため、川崎医科大学神経内科の先生方が代表となり、医師主導治験が2年前から始まり、当院も参加しています。インスリンや糖尿病治療薬に加えて、ミトコンドリア糖尿病を根源的に改善する治療となるよう治験を進めています。

【週1回注射のインスリン製剤の開発の取り組み】

今からちょうど100年前の1921年にインスリンはカナダの研究チームによって発見され、研究者達はノーベル賞を受賞しています。それから世界中の糖尿病患者さんがインスリン治療を行って健康を維持してこられました。

これまでのインスリン注射は長くてもおよそ1日分の効果しかありませんでしたが、今回1回の皮下注射によって1週間にわたって効果が期待できるインスリン薬が開発され、国際共同治験が進められています。当院もこの治験に参加しています。従来からの1日1回注射するインスリンと比較して、週1回注射のインスリンが効果や安全性の面で同等であるかを1年以上かけて調べるものです。インスリンの注射回数が少なく済むようになれば、大きな医学の進歩であると思います。



© 2017 JMACCT

（内分泌代謝科・糖尿病 森 保道）

患者さんに効果が高く安全に使用できる薬をより早くお届けできるよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

問い合わせ

本院治験事務局 3400、CRC室 3410

分院治験事務局・CRC室 5317